

令和 3 年度
学校法人鶴嶺学園
学校自己評価結果報告書
「神奈川社会福祉専門学校」

令和 4 年 5 月

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン（平成 2 5
年準拠）

1. 学校の教育目標

鶴嶺学園 2021年度 全体方針

- 1、組織編成と販売方法の再構築
- 2、運営体制・管理体制の強化とスリム化
- 3、外販（企業向け）商品の開発と実用化
- 4、NPOの有効活用
- 5、大規模開発と施設設備の充実
- 6、既存本科（学科）の魅力構築

（学校目標）

神奈川社会福祉専門学校

【教育課程】

- ・質の高い授業と実習の実現を図る

【生活指導】

- ・厳しくやさしい生活指導の実践と人格の陶冶

【進路指導】

- ・個々を見据えた丁寧な進路指導

【地域連携等】

- ・愛され信頼される学校づくり

【キャッチコピー】

笑顔を生み出すスペシャリスト

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

福祉校 商品開発と販売網の拡大

- ・多様化する本科生の支援体制強化
- ・施設や企業向け研修開発と販売集客
- ・外国人材への教育支援（技能実習生・入国時研修の開設と準備）
- ・エンディング分野の多角的な学習機会の提供
- ・校舎を有効活用した各種試験会場
- ・実務者研修開催再検討、オンライン研修動画配信
- ・地域社会や公共メディアへの広報拡大

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

| | | |
|---|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか) | 4 | 明確に定められており「かなふくナビ」に記載され、学生、教職員、本学職員関係者すべてが確認できる。 |
| ・学校における職業教育の特色は何か | 4 | 近隣の医療、福祉、介護の施設や、同グループで運営している施設、現場との密接な連携を行い、現場に求められる即戦力を有したスペシャリストを養成する。 |
| ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3 | 理事会、評議委員会等で常に学園の将来構想を検討している。 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3 | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについては志望段階のガイダンス、学年ごとの保護者面談等で行っているが、内容理解についての積極的確認は行っていない。 |
| ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか | 3 | 業界が求める人材を育成することが基本であり、そのための演習実習科目を増やし、卒業後即戦力になるような教育を行う。 |

① 課題

関係業界の動向や将来性には常に注意を払っているが、学校の将来構想の組み立て及び職業教育の指導方針においては、幅広く業界の動向や将来性をさらに注視し、現実的な業界動向にマッチした新しい業態に対応できるような柔軟さを持つ必要がある。学校の理念、教育目標等に関する学生、保護者からの特別のクレームはないため、ほぼ理解されていると思われるが、周知に万全を期す必要がある。

② 今後の改善方策

教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を軸に、さまざまな手段により関連業界との連携をさらに積極的に進めるとともに、幅広く関連する業界の動向と将来性の把握にも努め、より精度の高い将来性の評価能力を開発していく。学校の理念、教育目標等について、保護者との直接面談、ホームページ等による周知の機会を増やすとともに、学生、保護者アンケート等により、理解度を確認する機会を設ける。

③ 特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(2) 学校運営

| | | |
|---|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・目的等に沿った運営方針が策定されているか | 3 | 目的、運営方針は「かなふくナビ」に掲載し教職員、学生ともに把握している。 |
| ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 3 | 年度末に法人理事会・評議会において次年度の事業計画が策定される。また毎年度、学科ごとに教育方針や教育計画が定められる。 |
| ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3 | 運営会議における可決事項は教務関係は各学科長より専任教員に伝わり、事務関係は事務長より事務員へ周知徹底されている。 |
| ・人事、給与に関する規定等は整備されているか | 3 | 整備されている。 また、時代に合わせ変更も行っている。 |
| ・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 3 | ほぼ整備されている ※学園本部にて実施 |
| ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 1 | 今年度はコロナ禍における影響で外部活動の制限があった。 |
| ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 3 | カリキュラム、時間割、シラバスは学生に配布。 カリキュラムは学園ホームページにも公表している。 |
| ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 | X-point の導入により、業務の効率化はある程度図られている。 |

①課題

学生情報、運営情報の共有、業務効率化のために、学園グループ内での情報システムの整備を進める。

②今後の改善方策

S-wing を活用した情報の蓄積と共有化

X-point の有効活用による業務効率化

③特記事項

リモート授業（web 授業）への取り組みを進める

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(3) 教育活動

| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
|--|------------------------------|---|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 3 | 高齢化社会、少子化などの社会情勢にあわせた人材を育成するため、方向性については継続的に検討を行っている。 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3 | 知識・技術に関する教育目標は国家試験出題基準を基本レベルとして教育内容を設定している。 人間性に関しては、2年間各学期にわたるグループワークの中で人間性の育成を図っている。 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 | 3 | 現状では十分であると考えるが、時代に合わせて柔軟に内容を変えてゆくことが必要である |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか | 3 | 各学科で、実習や講義等を通してキャリア教育・実践的な職業教育の工夫・開発を実施しているが、それらの効果を明確に把握する迄には至っていない |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか。 | 3 | 学生による授業評価を実施している |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。 | 3 | 教育課程編成委員会、講師会議等での指摘のあった事項について精査し、改善に取り組んでいる |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 | 4 | 全学生配布の「かなふくナビ」に記載しており、明確になっている |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 | 3 | 通常の授業、補講において計画的に各種資格にむけ対策をおこなっている |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 3 | 厚生労働省指定の専任教員資格要件を備えた教員を必要数確保している。また、教員に必要な専門性、人間性、教授力も備えている。 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。 | 3 | 関連業界と接触する場面にて、積極的に情報交換を行って連携強化に努めながら、関係各校からの推薦、関連業界からの紹介等により人材を確保することに努めている。 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 1 | コロナ禍における各種研修の中止があった |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか。 | 1 | コロナ禍における各種研修の中止 |

①課題

授業内容や、学生の理解度を把握、評価する体制について検討が必要

② 今後の改善方策

教員間での情報共有とともに、積極的に外部研修への参加を行い、質の向上を図っていきたい

③ 特記事項

コロナ禍における実習施設確保が課題

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(4) 学習成果

| | | |
|--|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・就職率の向上が図られているか | 3 | 2年間通した就職指導を計画的に展開できるよう授業、HR,行事、実習等に関連付けながら指導計画に基づき行っている。 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 3 | 学科教員、職員全員での支援体制にあっている。 |
| ・退学率の低減が図られているか | 2 | 問題学生への個別対応力強化（保護者との連絡強化、面談回数の増加、学科全体としての対応）、勉学意欲を維持するカリキュラムの見直し、指導法の改善などの対策を講じているが、成果は十分とはいえない。 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 | 学生の社会的な活動を把握するよう努めている。一部卒業生の活躍も把握している |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 | 同窓会が組織されており、同窓会 OB の施設限定の就職セミナーなども開催している 同窓生、企業からの反応も良い |

① 課題

成績不良者への対策、個別フォローは行っているが、入学時点での基礎学力の問題や、入学後の学習能力の向上についても引き続き取り組んでいかななくてはならない。

② 今後の改善方策

定期的な面談、個別指導状況を学校全体で把握していく
実習時などに、卒業生の職場を定期的に訪問し、情報の共有化を学校間で行う
同窓会の活性化

③ 特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(5) 学生支援

| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
|--|------------------------------|---|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3 | 求人票のファイリング・掲示板の情報発信などを行っている。担任が中心となり個別に指導相談に当たっている |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか。 | 3 | 主に担任が個別相談を実施している。 |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 | 4 | 日本学生支援機構奨学金、神奈川県介護福祉修学資金、鶴嶺学園報奨金（理事長奨学金）、生命保険奨学金の制度を取り入れており、有効に機能している |
| ・学生の健康管理を担う体制はあるか。 | 4 | 毎年4月に定期健康診断を行っている。 |
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか。 | 3 | 学生の課外活動に対する支援体制、協力体制は整っているが、ここ数年自主的なサークル活動は行われていない。 |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか。 | 3 | 近隣の学生が主なため、住居の提供は行っていないが、不動産業者等の紹介は行っている。 |
| ・保護者と適切に連携しているか。 | 4 | 成績表は前・後期末に保護者に送付している。成績不良者等問題のある学生について、保護者含め手の三者面談をおこなうこともある。 |
| ・卒業生への支援体制はあるか。 | 4 | 同窓会が組織されており、学校と卒業生との窓口になっている |
| ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 | 国、県からの委託事業への対応を行っている。夜間部への対応は行っていない。 |
| ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 | 高校訪問事業などにおいて、職業理解や求められる人物像についての継続的な啓蒙活動を行っている。 |

①課題

| |
|------------------------|
| 同窓会の活性化 経済的困難学生への支援 |
|------------------------|

②今後の改善方策

| |
|---|
| 経済的困難学生への学費割引規定作成、運用 保護者との連携 同窓会加入のメリット拡大 |
|---|

③特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(6) 教育環境

| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
|--|------------------------------|---|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 | 3 | 設置基準を十分に満たしている施設・設備である。必要に応じてその都度整備・改修・改善している。 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 | 2 | コロナ禍における受け入れ施設の問題。家族も満足に入れない中、実習生を受け入れてくれる施設を探す |
| ・防災に対する体制は整備されているか。 | 3 | 防火管理規程を定めて体制を示し、防火訓練等を実施している。 防災訓練は学生も参加し、年一回実施している。 |

①課題

昨今の学生のニーズに合わせた施設設備の更新、維持

②今後の改善方策

施設設備のメンテナンスなど定期点検を強化し、必要に応じて更新する。

③特記事項

コロナ禍における実習施設確保が課題

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(7) 学生の受け入れ募集

| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
|------------------------------|------------------------------|---|
| ・学生募集活動は適切に行われているか | 3 | 事務局により、年間スケジュールを計画的に立案しているものの、定員を満たせていない学科もあるため募集活動内容には検討の余地がある。 |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 | 学園案内や広報資料を毎年更新しているほか、各実績のPR資料を製作し、オープンキャンパスや高校訪問、進学ガイダンス等で最新の情報を提供している。 |
| ・学費・納入金は妥当なものとなっているか | 3 | 同分野の他校と比較し、妥当な額となっている |

①課題

少子化や高校生の大学進学志向、就職状況の向上、業界そのものの不人気などの要因により、高校新卒生の確保が難しくなっている。また中途採用の求人状況も向上していることから既卒者社会人の入学希望者も年々減少している状況である。県や国の委託事業についても応募は少ない

②今後の改善方策

学生募集活動において、設置している各学科の業界の魅力や活躍する卒業生の実態などをより広く周知する活動を行い、分野自体の希望者増加に努めていく。また、充実した実習先、就職先や関係団体等との結びつきなどを含め、安定した学校運営を外部にアピールしていく。

④ 特記事項

コロナウイルス対策による様々な事業の遅れ。
高校へのアプローチが難しく、学生の動きもどうなっているか完全には把握できていない。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(8) 財務

| | | |
|---------------------------|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 2 | 少子化の中、学生数の減少と共に収入の減少は不可避ではあるが、その中でも新入生の安定的な確保と、持続的な経費の削減を図っていく。 |
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3 | 事業計画に沿った予算編成になっており、おおむね妥当といえる。 |
| ・財務について会計監査が適正に行われているか | 4 | 年間1回、会計監査を行っている |
| ・財務情報公開の体制整備は出来ているか | 4 | 既に学園ホームページ上に公開している |

①課題

少子化に伴う18歳人口（高卒人口）減少による学生数減少

②今後の改善方策

18歳人口に頼らない、社会人の「学びなおし」への対応した講座の開発
 動画配信による新たな研修商品の開発
 資格講座、資格試験の会場貸しによる収益の確保

③特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
|---------------------------------|------------------------------|--|
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。 | 3 | 法令、設置基準等に関してはそれらを遵守したうえで、適正な運営がなされている。 |
| ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 | 3 | 個人情報保護に関する法令の順守や教職員に対して、順守事項の確認を行っている。 |
| ・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか | 3 | 毎年、基準に従った自己評価を実施している |
| ・自己評価結果を公開しているか。 | 3 | 既に学園ホームページ上に公表している |

①課題

個人レベルでのネットワーク上のセキュリティ管理の意識徹底

②今後の改善方策

教職員のセキュリティ教育の継続
コロナウイルス対策・安全衛生の徹底
個人情報保護規定の策定
グループ企業が実施しているリスクマネジメント委員会へ参加

③特記事項

コロナウイルスへの感染防止対策は引き続き継続して行う

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(10) 社会貢献・地域貢献

| | | |
|---|------------------------------|--|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 | 1 | コロナ禍における各種活動の制限 |
| ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 1 | コロナ禍における各種活動の制限 |
| ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。 | 3 | 国、県からの業務委託は積極的に受託している。ただ、実際の受講者は伸びていない |

① 課題

地域に貢献する人材を育成するためにも、さらなる地域貢献、社会貢献に努めたい

② 今後の改善方策

様々な団体との連携により、地域貢献、社会貢献の機会を増やしていく

③ 特記事項

コロナウイルス対策により不透明な部分が多くなる

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

施策と年度の実績

【募集・広報】 募集担当と教職員が連携し募集活動を行った

中学校や高校の学校訪問、ガイダンス、福祉体験授業には募集担当と教員が協力して対応した。

【高校・社会人教育】 介護職員初任者研修を高専連携高で実施。

前年度受講者の中から福祉専門職を目指し本校受験者が複数名いた。

【学生について】 コロナ禍における当校制限、リモート授業の中、カリキュラムそのものは厚労省からの短縮は認められず、負担の多い年度であった。

【資格】 介護福祉士国家試験では繰り返し決め細やかな指導を行った結果、今年度も全員合格。

卒業生向けの社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験対策講座を7回実施。

実習指導者講習会を1回実施。

【研修】 職員会議を活用し、新しい情報等の共有を図った。外部研修の成果は記録資料の回覧や

会議の際の報告により共有した。新採用教員には、教務主任・学科主任及び分掌の

主担当者が中心となってOJTによる研修を行い、教員としての心構えや業務の定着を図り、相談にも積極的に応じた。